
令和6年度

第3次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

令和7年10月



春日井市民病院
Kasugai Municipal Hospital

春日井市民病院の基本理念

春日井市民病院は自治体病院として地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを存立の意義とする。

基本方針

- 1 人権の尊重によって築かれる相互の信頼のもとに、医療を受けられる方の意思が反映された医療を行います。
- 2 正当な根拠に基づく良質で高水準の医療を効率的に行うために絶えず研鑽します。
- 3 急性期医療の拡充と専門医療の推進に努めます。
- 4 地域の基幹病院として、医療機関、介護サービス事業者、保健・福祉行政との連携を密にして地域完結型医療を推進します。
- 5 公営企業として健全な経営に努めます。



目 次

第 1 節 事業概要	1
第 2 節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比	7
第 3 節 具体的取組の状況	11

第1節 事業概要

春日井市民病院は、健全な経営と医療の質の確保について様々な取り組みを実施していくため、平成21年3月に中期経営計画（公立病院改革プラン）を、平成27年3月に第2次中期経営計画を策定し、令和5年3月には、令和5年から令和9年度までを計画期間とする第3次中期経営計画を策定しました。

令和6年度は、地域の基幹病院として、次の取り組みを進め、持続可能な医療提供体制の確保と医療の質の向上を図りました。

事業面においては、令和6年1月に導入した手術支援ロボット「Hugo」による手術を同年4月から泌尿器科、産婦人科、外科の3つの診療科で開始し、計124件実施しました。また、サイバー攻撃への対策として院内のネットワークを常時監視分析し、ランサムウェアなどのウイルスの侵入を自動検知するネットワーク監視システムを導入しました。さらに電子処方箋を導入し、薬の処方情報を複数の医療機関・薬局が共有できるとともに、患者自身もマイナポータルで確認できるようになることで、より安全な医療を提供できる体制を整備しました。

施設設備面においては、令和6年5月から心臓病センターを開設し、循環器内科医、心臓外科医や医療技師など多職種が連携して、外来診療と再発防止のための外来リハビリテーションの集約により効率的な医療を提供するとともに、心不全教育入院を進め、心不全患者の予後改善を図りました。

また、コンピュータ断層撮影装置、放射線治療計画装置などの医療機器を更新しました。

経営面においては、手術件数や診療単価の増加により医業収益は前年度から増加したものの、それを上回る人件費や材料費等の医業費用の増加により、経常収支では997,438千円の損失を計上し、2年連続の赤字となりました。

業務実績においては、一般病床の入院延患者数は162,668人で一般病床利用率は80.7%（対数値目標比△7.8ポイント）、入院患者一人1日当たりの診療収入は75,969円（対数値目標比+6,969円）となりました。また、外来延患者数310,604人で外来患者一人1日当たりの診療収入は18,695円（対数値目標比+1,795円）となりました。

収益的収支においては、医業収益は19,429,881千円（対収支計画比+241,068千円）で、対前年度比580,700千円増加しました。一方、医業費用は20,249,229千円（対収支計画比+1,283,431千円）で、対前年度比972,561千円増加し、医業収支比率は96.0%となり対前年度比で1.8ポイント減少しました。なお、給与費は10,252,435千円（対収支計画比+381,847千円）、職員給与費対医業収益比率は52.8%（対数値目標比+1.4ポイント）、材料費は4,881,109千円（対収支計画比+725,109千円）、材料費対医業収益比率は25.1%（対数値目標比+3.4ポイント）となりました。

また、経常収益20,260,786千円（対収支計画比+238,592千円）、経常費用は21,258,224千円（対収支計画比+1,307,947千円）で、経常収支比率は95.3%（対数値目標比△5.1ポイント）となりました。

心臓病センター開設

【高度専門医療の提供 基本的取組1-2】
心疾患患者の診療機能の充実

心不全患者の再入院予防のため、令和6年5月13日に心臓病センターを開設しました。

同センターには、心臓リハビリ室を新設するとともに、点在していた外来と検査機能を集約し、外来受診時に運動療法に取り組めるなど、患者負担が少なくワンストップで行えるようになりました。

また、心不全療養指導士資格を14名が取得したことや、心臓リハビリテーション指導士や管理栄養士などの多職種がチームで連携することにより、患者のサポート体制を整え、退院後の心不全の再発・再入院を予防に取り組んでいます。

トピックス

循環器内科の入院・外来患者数は、前年度から5.4%増加しました。

手術支援ロボットの運用開始

【高度専門医療の提供 基本的取組1-2】
がん治療の充実

令和6年4月17日に手術支援ロボット「Hugo（ヒューゴ）」による1例目の手術を泌尿器科において実施しました。対象症例は、前立腺がんの切除で、これまでは開腹手術か、他院へ転院させていましたが、ロボットの導入により、患者は住み慣れた地域で安全な治療を受けられるようになりました。

その他、産婦人科、外科でもロボット支援手術が実施され、令和6年度のロボット手術件数は、3つの診療科で計124件となりました。

トピックス

ロボット手術の操作研修や他院への手術見学を行い、大腸がんなど消化管外科領域で実施できるよう研鑽しております。

心臓病センター内の
詳細動画はこちらへ ▶
(市民病院YouTubeより)



心臓病センター受付



心臓リハビリテーション



ロボット手術の詳しい
解説動画はこちらへ ▶
(メーカーYouTubeより)



手術支援ロボット「Hugo」



三次元立体画像を見ながら操作



電子処方箋の導入

【安全・安心な医療の提供 基本的取組2-1】 医療の質の向上

電子処方箋を令和7年3月に導入しました。

電子処方箋は、複数の医療機関や薬局で直近に処方・調剤された情報を確認でき、重複投薬のチェック等が行えるようになるなど、患者がどこにいても安全な医療提供に寄与できます。

患者側のメリットとして、処方箋の紛失リスクの低減、待ち時間が短縮されるほか、マイナポータルで、患者自身が服薬履歴や医療情報を確認でき、セルフケアや必要な情報提供が受けやすくなります。

トピックス

国は、電子カルテ情報共有サービスなど患者情報の複数医療機関での共有を進め、効率的かつ安全な医療提供体制の構築を目指しています。

麻酔科医師の充実による働き方改革の推進

【医療スタッフの確保・育成 基本的取組3-1】 勤務環境の改善

麻酔科医の人員の充実により、外科系医師は、本来の手術手技や術後管理に集中できるようになり、負担軽減につながるとともに、麻酔科医師が全身管理を担うことで、さらに安全な手術に寄与しています。

また、手術室の稼働率が向上し、手術件数が増加傾向にあり、病院収益の向上につながっています。

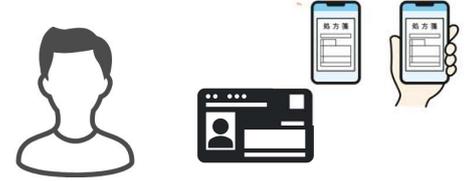
トピックス

当院麻酔科医師が救急救命士の気管挿管実習を積極的に受入れ、救急救命士の技術向上に寄与しています。

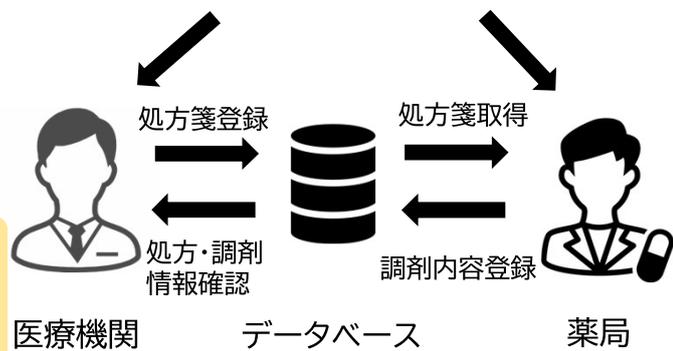
電子処方箋の
詳細情報はこちらへ
(厚生労働省HPより)



電子処方箋の概要図



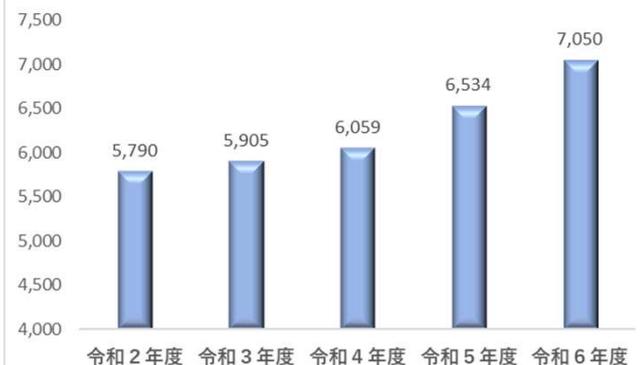
患者 マイナンバーカード



麻酔科の
詳細情報はこちらへ
(当院HPより)



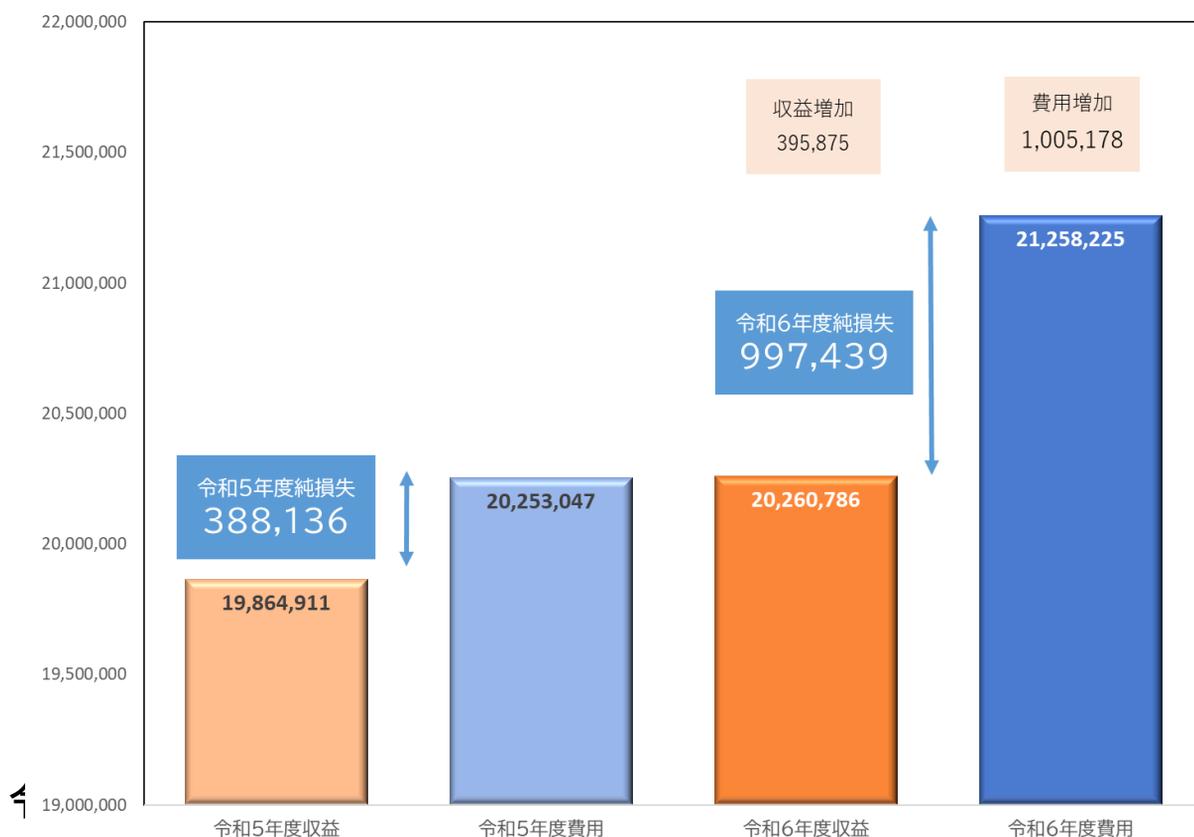
手術件数の推移



令和6年度決算概要

収益・費用前年度決算比較

単位:千円



収益は、手術件数や診療単価の増加により、入院・外来収益が約**5.4億円**増加したものの、**コロナ関連補助金約1.9億円**が廃止されたため、前年度から約**4.0億円**の増。

一方、費用は人事院勧告に基づく給与改定に伴う給与費や高額な抗がん剤の使用による材料費の増加などに伴い、**約10億円**増加したことから、結果、**約9.9億円の赤字**となりました。

単位:千円

	令和6年度	令和5年度	増減	増減比率
病院事業収益	20,260,786	19,864,911	395,875	2.0%
入院収益	12,357,804	12,076,749	281,055	2.3%
うち 外来収益	5,806,725	5,549,107	257,618	4.6%
コロナ関連補助金	0	185,122	▲ 185,122	▲ 100.0%
病院事業費用	21,258,225	20,253,047	1,005,178	5.0%
給与費	10,252,435	9,929,612	322,823	3.3%
うち 材料費	4,881,109	4,427,164	453,945	10.3%
経費	3,643,499	3,478,675	164,824	4.7%
純損益	▲ 997,439	▲ 388,136	▲ 609,303	▲ 157%

令和6年度決算概要

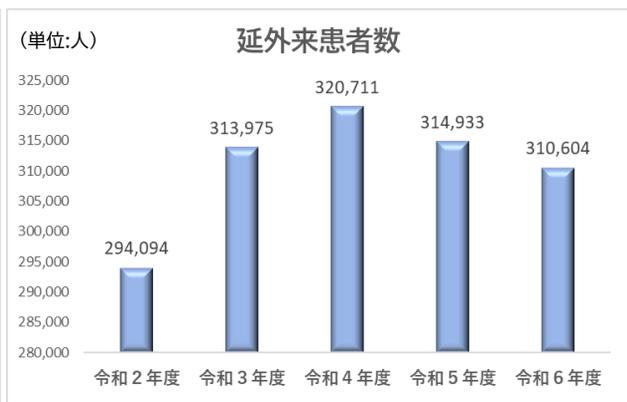
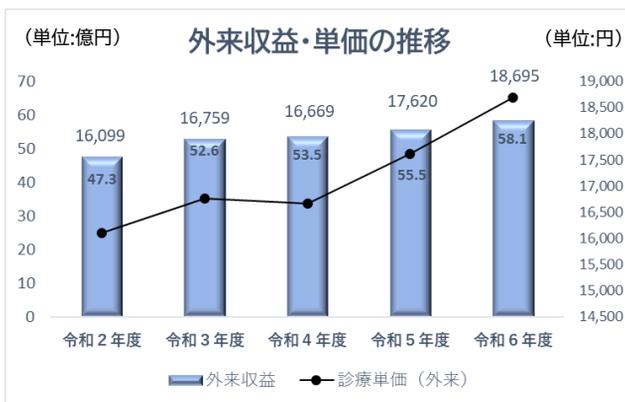
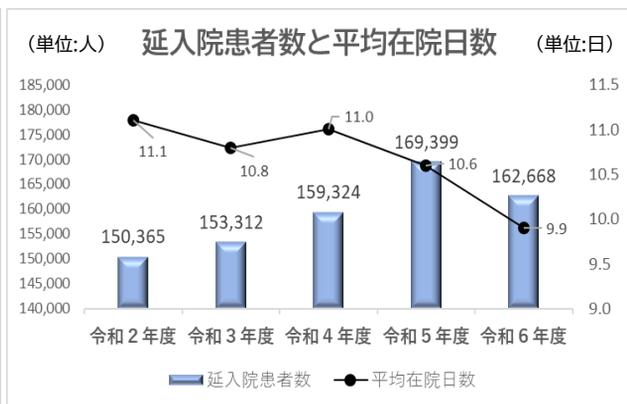
主な診療実績前年度比較

入院関連	令和6年度	令和5年度	増減
診療単価	75,969円	71,292円	4,677円
延患者数	162,668人	169,399人	△6,731人
1日平均患者数	445.7人	462.6人	△16.9人
病床利用率	80.7%	83.8%	△3.1P
平均在院日数	9.9日	10.6日	△0.7日

外来関連	令和6年度	令和5年度	増減
診療単価	18,695円	17,620円	1,075円
延患者数	310,604人	314,933人	△4,329人
1日平均患者数	1,278.2人	1,296.0人	△17.8人

稼働状況等	令和6年度	令和5年度	増減
手術件数	7,050件	6,534件	516件
紹介率	90.6%	87.30%	3.3P
逆紹介率	124.5%	109.3%	15.2P

注：緑色の矢印は改善、赤色の矢印は悪化を示す。

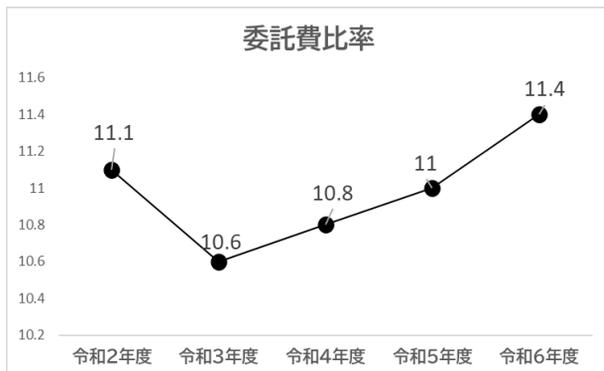
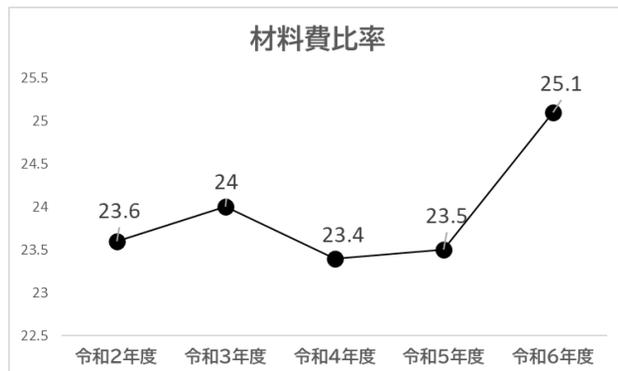
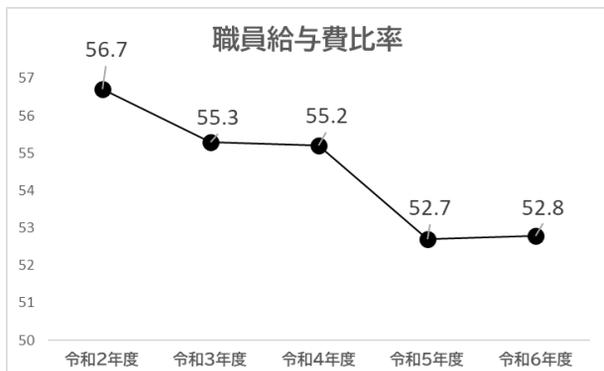
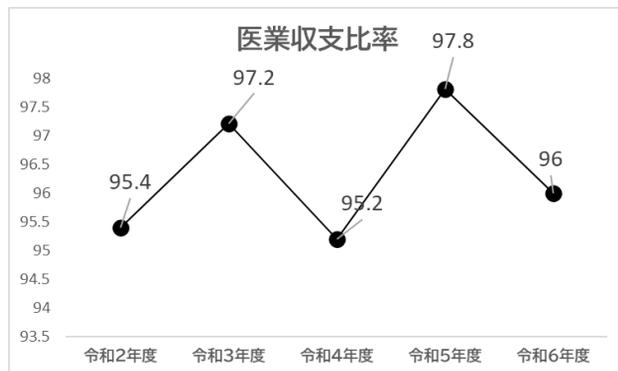
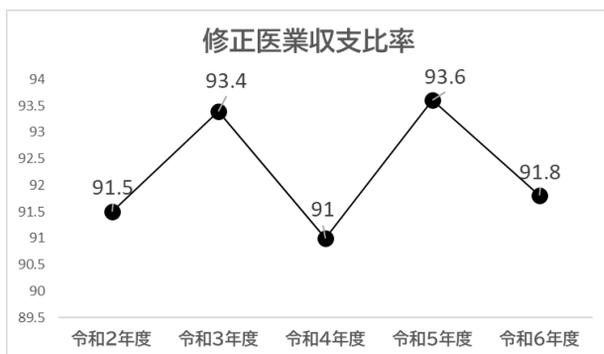
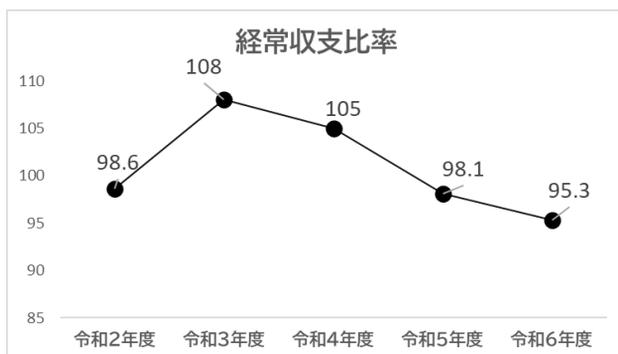


令和6年度決算概要

主な経営指標前年度比較

区分	令和6年度	令和5年度	増減
経常収支比率	95.3% 	98.1%	△ 2.8P
医業収支比率	96.0% 	97.8%	△ 1.8P
修正医業収支比率	91.8% 	93.6%	△ 1.8P
職員給与費比率	52.8% 	52.7%	0.1P
材料費比率	25.1% 	23.5%	1.6P
委託費比率	11.4% 	11.0%	0.4P

注：緑色の矢印は改善、赤色の矢印は悪化を示す。



第2節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比

指標名称		(計画)	(実績)	(差)
経常収支比率 (経常収益÷経常費用×100)	(%)	100.4	95.3	▼ △5.1P
医業収支比率 (医業収益÷医業費用×100)	(%)	101.2	96.0	▼ △5.2P
修正医業収支比率 ((医業収益 - 一般会計負担金) ÷医業費用×100)	(%)	97.0	91.8	▼ △5.2P
職員給与費対医業収益比率 (給与費÷医業収益×100)	(%)	51.4	52.8	▼ 1.4P
材料費対医業収益比率 (材料費÷医業収益×100)	(%)	21.7	25.1	▼ 3.4P
委託費対医業収益比率 (委託料÷医業収益×100)	(%)	10.4	11.4	▼ 1.0P
一般病床利用率	(%)	88.5	80.7	▼ △7.8P
延入院患者数(一般)	(人)	178,400	162,668	▼△15,732
1日当たり外来患者数	(人)	1,390	1,278	▼ △112
入院患者1人1日 当たり診療収入	(円)	69,000	75,969	▼ 6,969
外来患者1人1日 当たり診療収入	(円)	16,900	18,695	▼ 1,795
クリニカルパス適用率	(%)	50.5	50.6	▼ 0.1P
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金)	(百万円)	8,671	7,606	▼△1,065
資金の不足額	(千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額÷医業収益 ×100)	(%)	—	—	—
平均在院日数	(日)	10.6	9.9	▼ △0.7
紹介率	(%)	82.0	90.6	▼ 8.6P
逆紹介率	(%)	100.0	124.5	▼ 24.5P

注:緑色の矢印は改善、赤色の矢印は悪化を示す。

第2節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比

収益的収支

単位:千円

		(計画)	(実績)	(差)	主な増減要因
収	1. 医業収益 a	19,188,813	19,429,881	241,068	
	(1) 診療収益	18,017,913	18,164,529	146,616	
	入院収益	12,309,600	12,357,804	48,204	診療単価の増
	外来収益	5,708,313	5,806,725	98,412	診療単価の増
	(2) その他医業収益	1,170,900	1,265,352	94,452	
	うち一般会計負担金	783,300	839,264	55,964	
入	2. 医業外収益 b	833,381	830,905	△ 2,476	
	(1) 一般会計補助金	483,786	467,482	△ 16,304	
	(2) 国(県)補助金	25,500	26,497	997	
	(3) 長期前受金戻入	132,595	132,372	△ 223	
	(4) その他医業外収益	191,500	204,554	13,054	
経常収益 (a + b) (A)		20,022,194	20,260,786	238,592	
支	1. 医業費用 c	18,965,798	20,249,229	1,283,431	
	(1) 給与	9,870,588	10,252,435	381,847	給与改定による増
	給料	3,761,431	3,962,050	200,619	
	職員手当	3,316,738	3,361,095	44,357	
	その他	2,792,419	2,929,290	136,871	
	(2) 材料費	4,156,000	4,881,109	725,109	診療材料費の増
	うち薬品費	2,260,000	2,517,729	257,729	高額な抗がん剤の増
	(3) 経費	3,427,300	3,643,499	216,199	
	うち委託料	2,000,000	2,224,026	224,026	
	(4) 減価償却費	1,393,955	1,387,810	△ 6,145	
(5) その他	117,955	84,376	△ 33,579		
出	2. 医業外費用 d	984,479	1,008,995	24,516	
	(1) 支払利息	75,162	75,162	0	
	(2) その他	909,317	933,833	24,516	
経常費用 (c + d) (B)		19,950,277	21,258,224	1,307,947	
経常損益 (A) - (B) (C)		71,917	△ 997,438	△ 1,069,355	
特別損益	1. 特別利益 (D)	0	0	0	
	2. 特別損失 (E)	0	1	1	
	特別損益 (D) - (E) (F)	0	△ 1	△ 1	
純損益 (C) + (F)		71,917	△ 997,439	△ 1,069,356	
累積欠損金		1,338,922	2,440,958	1,102,036	

資本的収支

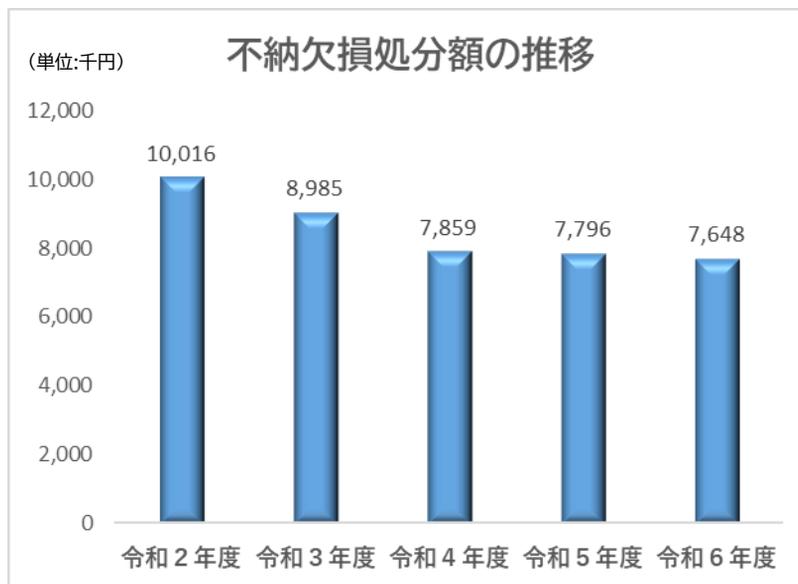
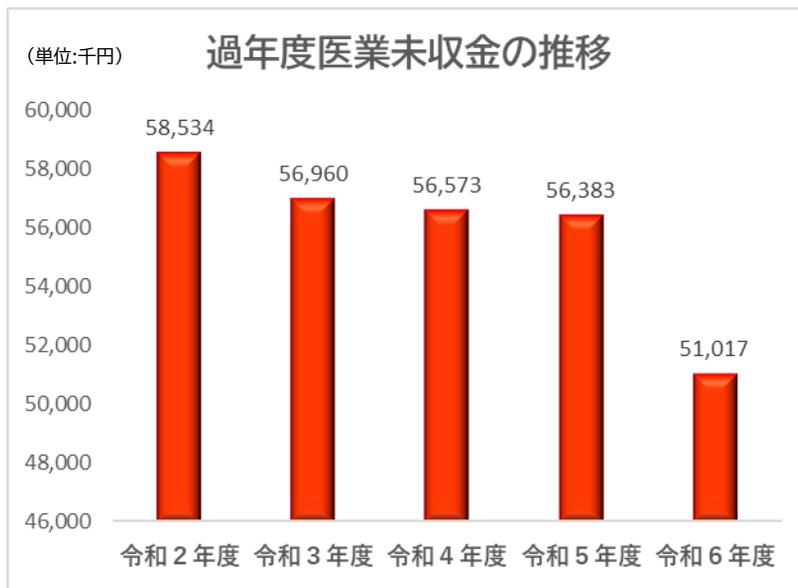
		(計画)	(実績)	(差)	
収	1. 一般会計出資金	294,694	294,696	2	
	2. 国(県)補助金	0	34,313	34,313	補助金の交付
	3. その他	0	7,133	7,133	看護修学資金の返還
収入計 (A)		294,694	336,142	41,448	
支	1. 建設改良費	1,256,386	496,043	△ 760,343	放射線治療装置更新延期
	2. 企業債償還金	1,031,269	1,031,269	0	
	3. 投資	38,412	1,935,732	1,897,320	債券購入
支出計 (B)		2,326,067	3,463,044	1,136,977	
差引不足額 (A) - (B)		△ 2,031,373	△ 3,126,902	△ 1,095,529	

第2節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比

職員の状況(各年度4月1日現在)

職種	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	(令和9年度計画)
医師	145人	145人	153人	161人	171人	154人
薬剤師	39人	40人	43人	39人	39人	40人
医療技師	135人	136人	137人	142人	145人	139人
看護職員	590人	593人	582人	577人	590人	594人
行政職員	41人	41人	42人	42人	42人	43人
労務職員	2人	2人	1人	1人	2人	2人
計	952人	957人	958人	962人	989人	972人

職員数は、研修医、専攻医(令和3年度まで)を除き、正規職員の職員数



第3節 具体的取組の状況

取組方針1 地域で果たす医療機能の充実

救急医療の充実 基本的取組1-1

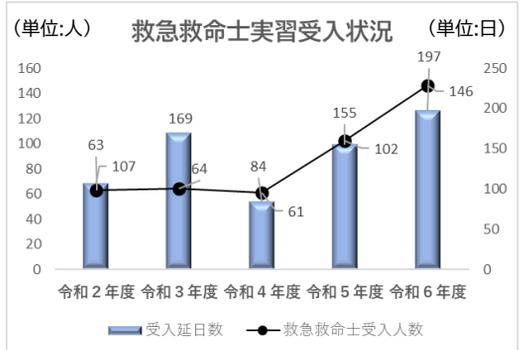
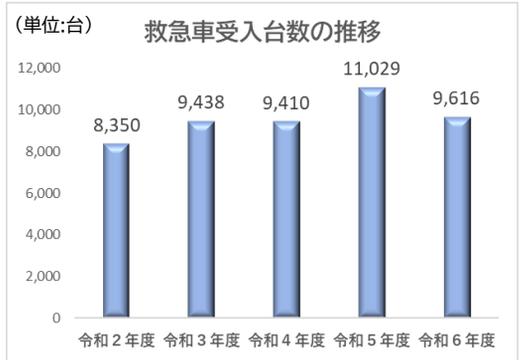
救命救急センターの充実

救急患者や重症患者に対し、迅速に対応するため、平日夜間、休日の脳卒中・心疾患、小児・周産期の専門、救急医療提供体制を堅持しました。

また、救急患者や重症患者に対し迅速に対応するため、休日・平日夜間急病診療所と日常的に連携をとり、連絡体制の確保及び大型連休（GW、お盆、年末年始）の医師等の診療体制の確認をしています。

令和6年度の主な取組み

- ・救急救命士の採用
- ・消防機関との連携
- ・救急救命士の気管挿管病院実習の受入れ



高度専門医療の提供 基本的取組1-2

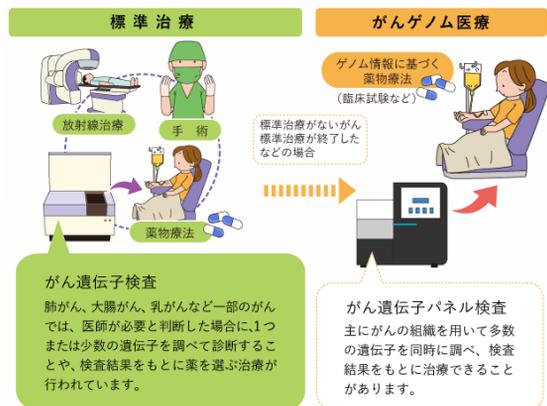
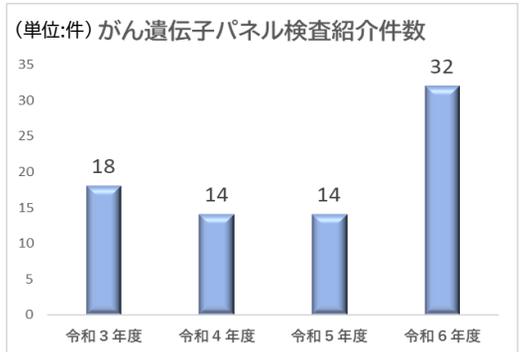
がん治療の充実

乳がん・卵巣がんなどに遺伝的要因が影響しているかどうかを遺伝子検査で診断し、個々の患者に適した治療を行うほか、遺伝子パネル検査を希望する患者をがんゲノム医療中核拠点病院やがんゲノム医療拠点病院へ紹介しています。

外来化学療法センターでは、抗がん剤治療による脱毛予防ケアとして頭皮冷却を行っています。

令和6年度の主な取組み

- ・がんゲノム医療中核拠点病院等への紹介体制と診療体制の継続
- ・手術支援ロボットによる手術開始



がん情報サービスホームページ
「がんゲノム医療 もっと詳しく」から引用

第3節 具体的取組の状況

地域完結型医療の推進 基本的取組1-3

地域医療連携の推進

当院の医師と事務職員が地域の医療機関を訪問し、各診療科の強みや紹介してほしい疾患等をPRするとともに、要望や意見を聴取し対応するなど顔の見える関係のもと、信頼関係の向上に努めています。

また、回復期病院を始めとした近隣医療機関や訪問看護ステーションなど医療・介護機関との連携推進のため、研修会等において情報共有及び意見交換を行っています。

ふたり主治医制の推進

当院では、患者一人に対して、病院の医師と地域のかかりつけ医が連携して継続的に治療を行う「ふたり主治医制」を推進しています。そのためのツールとして、「Tri-netかすがい」、「かすがいLiner」を活用しています。

「Tri-netかすがい」は、紹介元の医療機関が紹介患者の診療や検査の状況を共有できるシステムです。CTやMRI等の検査予約をオンラインで完結できます。

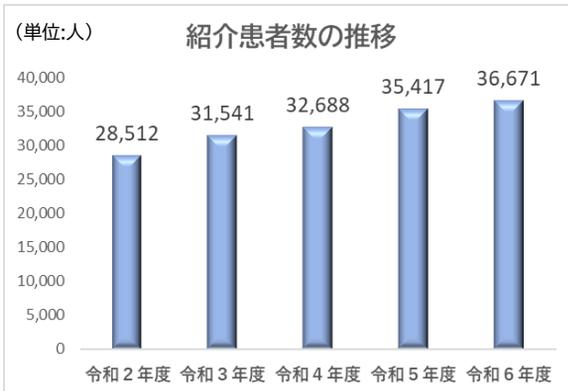
「かすがいLiner」は、当院から医療機関へ逆紹介した患者について、紹介先の医療機関に対して、当院の受診予定日が近づいたことを文書で通知します。

地域包括システムの推進

在宅療養への対応を強化するため、地域の医療・介護従事者の資質向上に寄与することを目的として、当院が備えている人的資源を活用した研修会を開催しました。

令和6年度の主な取組み

- ・地域の医療機関への訪問
- ・Tri-netかすがい、かすがいLinerの活用
- ・診療科のご案内の発行
- ・地域連携研修会の開催



当院と春日井市民病院のふたりの主治医 を持ちましょう！

当院は、春日井市民病院との機能分担を推進し、協力し合って質の高い医療を提供できるよう努めています。

専門治療や精密検査が必要な場合は、春日井市民病院へ紹介します

春日井市民病院での治療が落ち着いたら、当院を受診しましょう

令和4年11月



第54回 地域連携研修会

支援が難しい患者の対応について書えよう！

支援介入が難しいと感じる患者や家族へのかかり方について
～ケアプラン作り 主任介護支援専門員・社会福祉士 継続光幸様～

※ 講演後、事例について意見交換があります

開催日時 令和7年1月27日(月) 15時30分～16時30分

開催形式 オンライン開催はありません

開催場所 春日井市総合保健医療センター4階多目的ホール

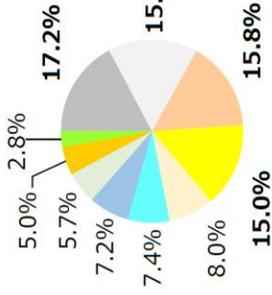
対象者 介護支援専門員、訪問看護師、地域包括支援センター職員、通所介護職員、訪問介護職員、施設職員等

申込方法 春日井市民病院ホームページ「地域医療連携」オンラインによる遠隔研修～オンライン～研修会の申し込みをクリックして情報を入力してください。
研修参加形式は「対面」を選択してください。
※ 予約申込は、申込締切日(1月20日)までとさせていただきます。
※ 研修への参加は、研修費は一切かかりません。

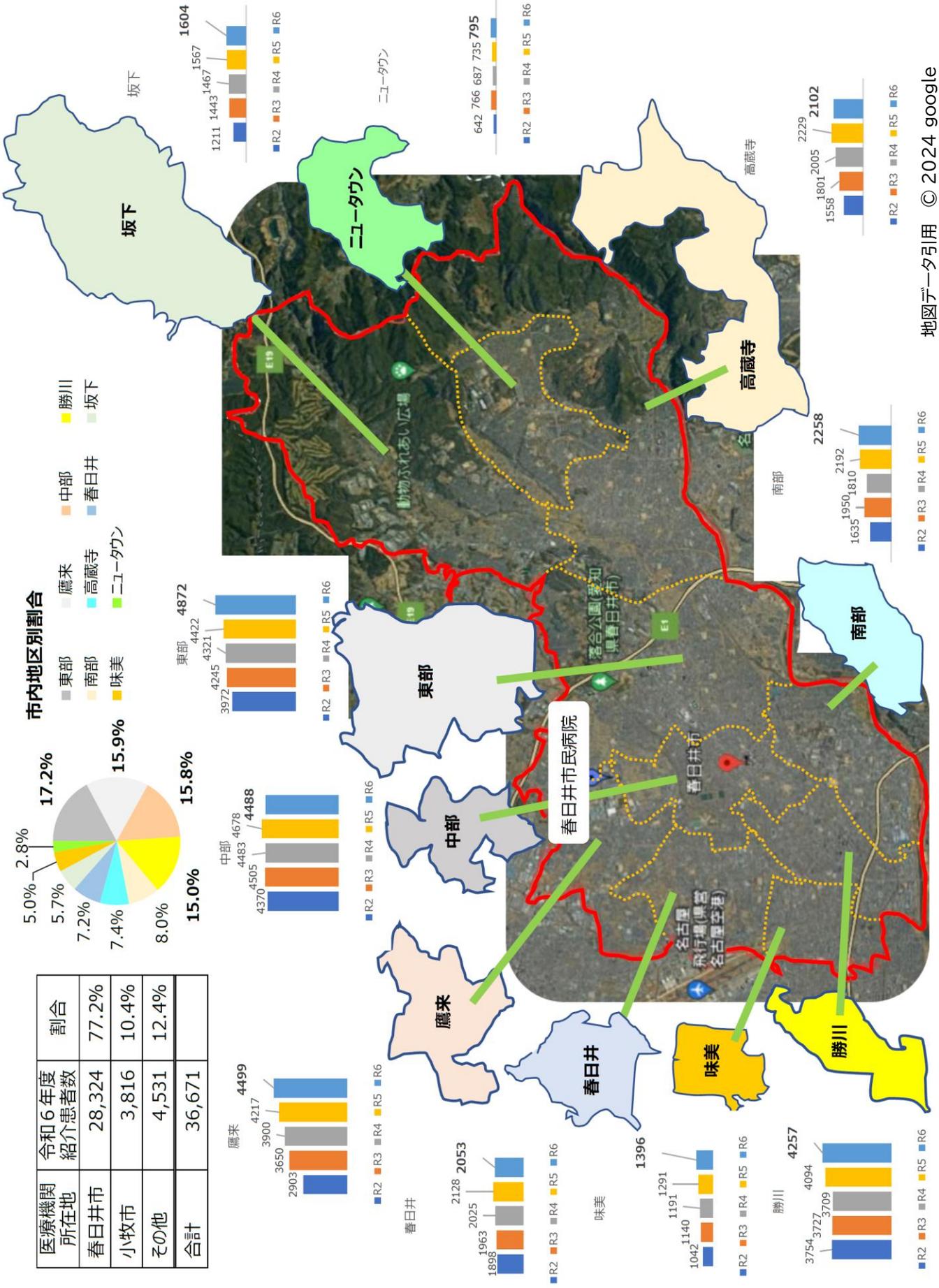
申込締切日 令和7年1月20日(月)

【問い合わせ先】春日井市民病院医療連携課 橋野・井上 ☎0568-83-9924

医療機関所在地	令和6年度紹介患者数	割合
春日井市	28,324	77.2%
小牧市	3,816	10.4%
その他	4,531	12.4%
合計	36,671	



市内地区別割合



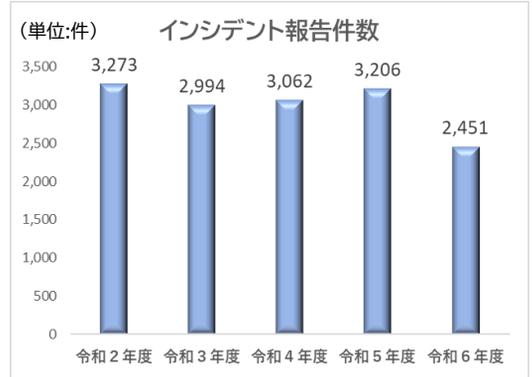
第3節 具体的取組の状況

取組方針2 市民の立場に立った医療サービスの提供

安全・安心な医療の提供 基本的取組2-1

医療安全意識の向上

職員の安全意識向上のため、毎月第3週を安全強化週間と定め、全職員へ安全意識の啓発をしています。また、病棟等で発生した医療事故につながりかねない出来事（インシデント）を報告書としてまとめ、これらの事例を分析し、類似するインシデントの発生や医療事故・医療過誤の発生を未然に防ぐため、業務マニュアルへ反映し周知しています。



医療安全週間の標語の例



令和6年度の主な取組み

- ・安全推進ワーキングの開催
- ・職員全体研修の開催
- ・インシデント報告に基づく業務マニュアルの改定

クリニカルパスの拡充

当院では、約150種類のクリニカルパス（入院から退院までの治療や検査の予定を一覧にした「治療のスケジュール表」）を運用しており、治療の成果や経過に関するデータを分析し、よりよい治療ができるよう改定を進めています。

定期的な研修会や、クリニカルパス大会を開催するなど、質の高い医療の提供に努めています。

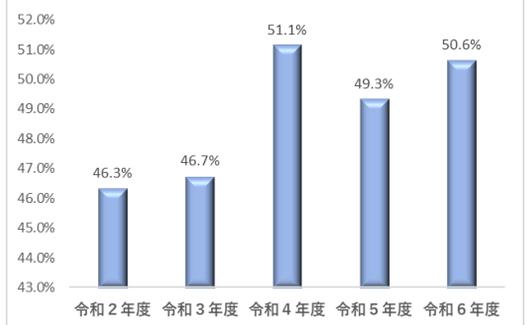
誤嚥性肺炎のクリニカルパス

項目	現状	目標	対策
1. 誤嚥性肺炎の発生率	現状: 発生率が高い	目標: 発生率を低下させる	● 嚥下機能の評価を徹底する ● 嚥下訓練を実施する
2. 嚥下機能の評価	現状: 評価が不十分	目標: 評価を徹底する	● 嚥下機能の評価を徹底する ● 嚥下訓練を実施する
3. 嚥下訓練の実施	現状: 実施率が低い	目標: 実施率を向上させる	● 嚥下訓練の実施を徹底する ● 嚥下訓練の実施率を向上させる
4. 嚥下訓練の効果	現状: 効果が不明	目標: 効果を評価する	● 嚥下訓練の効果評価を徹底する ● 嚥下訓練の効果評価を向上させる

令和6年度の主な取組み

- ・クリニカルパスの作成、分析、改定
- ・院内研修会、クリニカルパス大会の開催

クリニカルパス適用率の推移



第3節 具体的取組の状況

災害時医療の充実 基本的取組2-2

災害時の医療機能の維持

毎年防災訓練を実施しており、災害対策本部立ち上げ訓練、トリアージ訓練などを実施しています。

また、訓練回数を増やし、幅広く職員が参加できるように小規模訓練を実施しています。

地域や広域の医療機関等の支援を行う体制として、DMAT 2 隊を設置しており、広域災害を想定した訓練など、様々な災害を想定した訓練に参加しています。

患者搬送訓練



トリアージ訓練



令和6年度の主な取組み

- ・DMAT技能維持訓練への参加
- ・災害対策講演会の開催
- ・エスカレーター非常停止訓練

取組方針3 健全な経営の確保

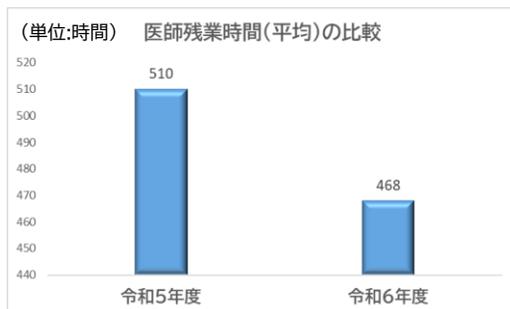
医療スタッフの確保・育成 基本的取組3-1

勤務環境の改善

医師の時間外労働の上限規制の適用を受け、勤務間インターバルの確保や長時間労働医師への面談等を実施した結果、平均残業時間は減少傾向にあります。学会出張は原則自己研鑽の取扱いとし、経費については、補助費として支給し、医療職員の能力向上を支援しています。

また、病棟の勤務シフト作成業務の支援システムを導入し、看護職員等の負担軽減を図りました。

令和5、6年度医師残業時間の比較



厚生労働省ホームページ
「医師の働き方改革概要」から引用

令和6年度の主な取組み

- ・夕方夜間の看護補助者派遣の継続
- ・労働基準法第36条に基づく「時間外労働・休日労働に関する協定書」の締結
- ・勤務表自動作成システムの導入

医療機関に適用する水準	年の上限時間	面接指導	休息時間の確保	
A(一般労働者と同程度)	960時間	義務	努力義務	
連携B(医師を派遣する病院)	1,860時間 ※2035年度末を目標に終了		義務	義務
B(救急医療等)				
C-1(臨床・専門研修)	1,860時間			
C-2(高度技能の修得研修)				

第3節 具体的取組の状況

医療スタッフの質の向上

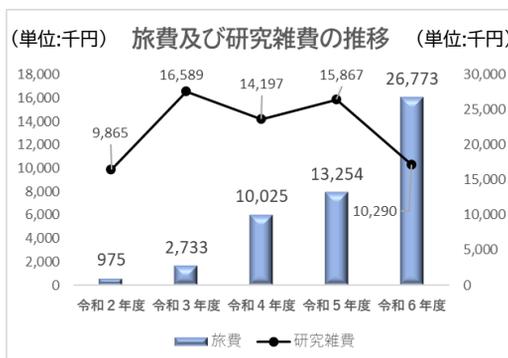
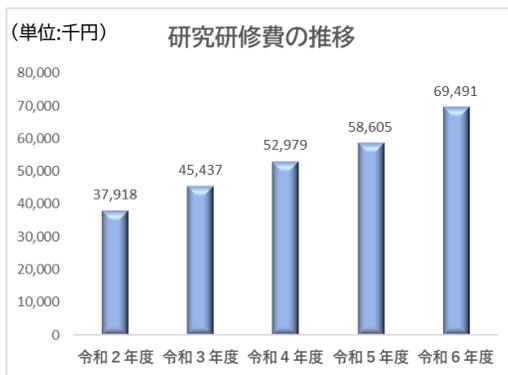
当院は、病院運営や収益確保を図るとともに、施設基準を満たすため、必要な資格の取得や研修受講などの費用を病院負担とし、積極的な受講を促進しています。

令和6年度から自主研修補助費支給要領を策定し、業務と自己研鑽を明確にし、院外の講習会や学会への参加、論文の発表の補助費を支給する制度に改めました。

その他、医療安全や感染などの職員全体研修を毎年行い、必要な知識の定着に努めています。

令和6年度の主な取組み

- ・認定看護管理者研修の受講
- ・タスク・シフト／シェアに関する指定講習会の受講
- ・各種資格の取得、講習の受講
- ・自主研修補助費支給要領の策定



効率的な病院経営の推進 基本的取組3-2

経営意識の向上

毎月の経営状況をとりとまとめ、幹部職員等が参加する幹部会において、報告、意見交換を行い、経営意識の向上に努めています。また、業務上の改善点や要望を各所属長から聞き取るため、幹部会構成員によるヒアリングを実施しています。

令和6年12月から、夕方時間帯の医療機器の有効活用を図るため、認知症リスクを測定する「トワイライトドック」を開始しました。春日井市のふるさと納税の返礼品に登録するなど、利用促進を図っています。

令和6年度の主な取組み

- ・事業計画ヒアリングの実施
- ・診療データを用いた他院との比較・分析結果の報告
- ・職員からの業務改善の提案

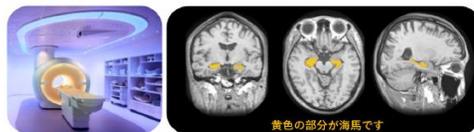
トワイライトドック
詳細情報はこちらへ
(当院HPより)



トワイライトドックのふるさと納税返礼品への登録



脳の健康診断 (トワイライトドック) とは...



画像解析技術「BrainSuite」で測定した海馬の体積から認知症のリスクを評価し、結果をレポートにお送りします。また、オンラインの脳の健康相談をご利用いただけます。詳しくは春日井市長病院のHP (裏面のQRコード) をご覧ください。

※令和7年9月末時点の実績:50件

第3節 具体的取組の状況

収益の確保及び経費の節減

○債券投資

物価高騰による価格転嫁が難しい病院経営の収益確保策として、債券投資を開始しました。

令和6年度に19億円分を購入し、金利変動リスク緩和のため、年限を2～5年まで分散投資するラダーポートフォリオを組んでいます。

また、社会的課題の解決に資するソーシャルボンドへの投資を行い、社会的な責任を果たしていきます。

令和6年度の主な取組み

- ・投資方針決定
- ・債券の購入
- ・購入債券の投資表明

○価格交渉による材料費の削減

全国の多数の医療機関が参加するベンチマーク事業に参加し、参加病院の中での自病院の購入価格を位置づけを確認し、購入価格の削減等に活用しています。

薬品は年2回、診療材料は随時価格の値引き交渉を実施するとともに、診療材料の一部の品目については、一定の数量を使用すると価格を引き下げる契約を結び、材料費を削減しています。薬品の購入に際して、高額な抗がん剤をバイオ後続品に切り替え、薬品費の削減につなげました。また、診療材料購入委員会及び医療機器物品購入審査委員会を適時開催し、診療材料の適正な在庫管理や購入する医療機器等の選定を進めました。

令和6年度の主な取組み

- ・価格交渉による値引き
- ・先発品から後発品、バイオ後続品への切替え

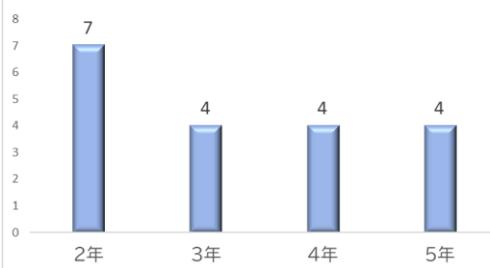
債券購入による投資表明
詳細情報はこちらへ
(当院HPより)



(単位:千円) 有価証券利息収入の見込

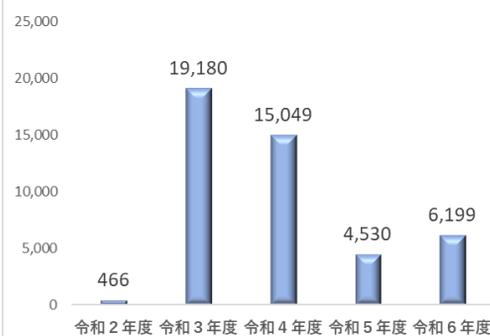


(単位:億円) 年限別債券購入金額



価格交渉による削減額の推移

(単位:千円) 診療材料削減額



(単位:千円) 医薬品削減額



第3節 具体的取組の状況

○ホームページなどの媒体を活用した情報発信の推進

広報春日井に当院の医療への取組み等に関する記事を掲載するとともに、当院の診療内容や取組み等を掲載した地域住民向けの病院新聞「さくら」や、地域の医療機関向けの病院情報誌「Trinity（トリニティ）」を各年3回発行したほか、市民公開講座の開催や世界肥満デー啓発イベントへの参加を通じて当院の取組みをPRしました。

また、2回目の開催となった夏休み医療探検隊では、対象を中学生とその保護者として開催しました。

市民公開講座



世界肥満デー啓発イベント



人生会議啓発イベント



夏休み医療探検隊



夏休み医療探検隊の当日の様子は、こちらのQRコードから動画をご覧ください。



病院新聞「さくら」



病院情報誌「Trinity」

